

【基礎編】第8回 自然な文脈で教える①:NBDIの理論

◆ 研修資料(受講者配布用) ◆

1. はじめに:療育は「訓練」の時間だけではない

これまでの研修で、私たちは特定のスキルを教えるための様々な技術(プロンプトやシェイピングなど)を学んできました。それらは多くの場合、机に向かって1対1で集中して行うような、構造化された環境で非常に有効です。これを「DTT(ディスクリート試行法)」的なアプローチと呼びます。

しかし、子どもたちの生活は、机の上だけで完結するわけではありません。子どもたちは、遊び、食事、着替え、移動といった、流動的で「自然な生活」の中で生きてています。

私たちが目指す最終ゴールは、子どもが学んだスキルを日常生活のあらゆる場面で自発的に使えるようになること(般化)です。そのためには、構造化された教え方だけでなく、遊びや生活といった自然な文脈の中で発達を促していくアプローチが不可欠になります。その代表的な考え方が「NBDI(エヌビーディーアイ)」です。

2. NBDI(自然主義的行動発達アプローチ)とは?

- **NBDIとは?**
 - Naturalistic Behavioral Developmental Interventionsの略。日本語では「自然主義的行動発達アプローチ」などと訳されます。
 - ABAの原理を、子どもの自発的な興味・関心や、日常生活の自然な流れ(文脈)の中に組み込んで、コミュニケーションや社会性などのスキルを教えていくアプローチの総称です。
- **NBDIの核心的な考え方**
 - 「教える」から「学びを引き出す」へ:大人が設定した課題を子どもにやらせるのではなく、子どもが今、興味を持っていること(遊び)に大人が寄り添い、その流れの中で自然に学びの機会を埋め込んでいきます。
 - 子どもの「やりたい!」が最強のエンジン:子どもの内発的な動機づけ(モチベーション)を何よりも重視します。子どもが「楽しい!」「もっとやりたい!」と感じる中でこそ、スキルは最も効果的に習得され、般化しやすくなります。

3. DTTとNBDI:2つのアプローチの違いと比較

DTT(ディスクリート試行法)とNBDIは、どちらが良い／悪いというものではなく、目的や子どもの状態に応じて使い分ける、車の両輪のようなものです。それぞれの特徴を理解しましょう。

特徴	DTT(ディスクリート試行法)	NBDI(自然主義的行動発達アプローチ)
主導権	大人主導(大人が課題や教材を決める)	子ども主導(子どもの興味・関心から始まる)

場面	構造化された場面(机上など)	自然な場面(自由遊び、おやつ、散歩など)
強化子	行動とは直接関係ないことが多い(例:課題ができたらお菓子)	行動と自然に結びついている(例:「ミニカー」と言えたらミニカーで遊べる)
教える内容	特定のスキルを切り出して教えるのに適している(物の名前、色の理解など)	コミュニケーションの自発性や社会的なやりとりを教えるのに適している
メリット	・短時間で多くの練習ができる・スキルの定着度が分かりやすい	・子どものモチベーションが高い・般化しやすい・楽しく学べる
デメリット	・般化しにくいことがある・子どものやる気が続かないことがある	・計画的な介入が難しいことがある・特定のスキルを集中的に練習しにくい
イメージ	個別指導塾でのドリル学習	体験学習や会話中心の英会話レッスン

4. なぜNBDIが重要なのか？

1. 般化を促進する
 - NBDIでは、スキルを学ぶ場面そのものが日常生活なので、「練習」と「実践」が直結しています。「ミニカー」という言葉を、おもちゃのミニカーで遊んでいる時に学ぶからこそ、他の場面でもミニカーを見て「ミニカー」と言えるようになります。
2. 自発性を育む
 - 「〇〇を言いなさい」という指示で話すのではなく、子どもが「あれが欲しい!」「あれを伝えたい!」と思った時に言葉を教えるため、コミュニケーションの自発性が育ちます。
3. ポジティブな関係を築く
 - 大人が子どもの遊びに寄り添い、その世界を共有し、広げてあげる関わりは、子どもとの間に強い信頼関係(ラポール)を築きます。これは、すべての支援の土台となります。

5. NBDIの基本戦略:学びの機会を「仕掛ける」

NBDIは、ただ子どもと遊ぶだけではありません。子どもの発達を促すために、支援者が意図的に環境を操作し、コミュニケーションの機会を創出します。

- 環境設定(Environment Arrangement)
 - 子どもが思わず何かを要求したり、コミュニケーションを取りたくなったりするように、環境に

「仕掛け」を作つておきます。

○ 【具体例】

- 物を手の届かない場所に置く: 子どもが好きなミニカーを、見えるけれど手の届かない棚の上に置く。(→子どもは支援者に取つてほしいと伝える必要が出てくる)
- 容器を固く閉めておく: シャボン玉の容器を、子どもの力では開けられない程度に固く閉めて渡す。(→「あけて」と要求する必要が出てくる)
- 一部を隠す・足りない状況を作る: パズルの最後の1ピースだけを支援者が持つておく。(→「ちょうどい」と要求する必要が出てくる)

この「環境設定」を始めとした具体的な実践テクニックは、次回の研修で詳しく学びます。

◆ 講師用原稿 ◆

(スライド1: タイトル)

「皆さん、こんにちは。研修第8回を始めます。さて、前回までの研修で、皆さんは個別支援計画の立て方や記録の方法を学び、チームで一貫した支援を行うための土台を固めました。

今日からは、支援の『中身』をさらに深めていきます。テーマは、『自然な文脈で教える』。療育＝机での勉強、というイメージを一度リセットして、遊びや生活のすべてを学びの場に変えるための、非常に重要なアプローチ『NBDI』の理論について学びます。」

(スライド2: はじめに) 10分

「皆さんが子どもたちと関わる時間の中で、机に向かって課題に取り組む時間は、全体のどれくらいでしょうか？おそらく、自由遊びや散歩、おやつの時間の方がずっと長いはずです。

もし、その『遊び』や『生活』の時間すべてが、子どもの発達をぐんと伸ばすための『療育』の時間になるとしたら、素晴らしいと思いませんか？

私たちが目指すゴールは、子どもがスキルを『知っている』ことではなく、生活の中で『使える』ことです。そのために、練習の段階から、より生活に近い、自然な状況で教えていく必要があります。その考え方を体系化したものが、今日学ぶNBDIです。」

(スライド3: NBDIとは？) 15分

「NBDIとは、『自然主義的行動発達アプローチ』の略です。難しそうに聞こえますが、ポイントは2つだけです。

一つは、子どもの『好き！』『やりたい！』という気持ちを何よりも大切にすること。

もう一つは、その『好き！』という気持ちが盛り上がっている、まさにその瞬間を逃さず、学びの機会をそっと埋め込んであげることです。

大人が『これを勉強しなさい』と引っ張っていくのではなく、子どもが進みたい方向に、私たちがそっと寄り添って、進むべき道を照らしてあげるようなイメージです。」

(スライド4: DTTとNBDIの比較) 25分

「NBDIをより深く理解するために、これまで皆さんが学んできたような、構造化されたアプローチ(DTT)と比較してみましょう。(スライドの表を使いながら解説)」

「DTTは、例えるなら『個別指導塾での漢字ドリル』です。一つの漢字を、何度も繰り返し書いて覚える。新しい知識を正確に、集中的にインプットするには非常に効率的です。

一方、NBDIは『海外でのホームステイ』のようなものです。生活の中で、必要に迫られて『これはなんて言うの？』と覚え、使ってみて、通じる喜びを感じる。だから、学んだ言葉が『生きた言葉』として身につきやすいのです。」

「どちらも優れた教育方法です。言葉の概念がまだない子に、まず『りんご』という単語そのものを教えるにはDTTが有効かもしれません。そして、『りんご』という言葉を覚えた子が、おやつの時間に本物のりんごを見て『りんご！』と自発的に言えるようになるのを促すのがNBDIです。このように、私たちは両方のカードを手に持ち、子どもの状況に合わせて使い分ける専門家になる必要があります。」

(スライド5: グループワーク) 25分

「では、皆さんの現場での関わりが、DTT的か、NBDI的か、少し整理してみましょう。」

「(ワーク)皆さんの事業所の、ある一日の流れ(例:朝の会、おやつ、自由遊び、おかえりの会など)を思い浮かべてください。その中で、『これはDTT的な関わりに近いな』『これはNBDI的な関わりだな』と思う場面を、それぞれ書き出してみてください。そして、なぜそう思うのかをグループで共有しましょう。(10分程度)」

「(発表後)...ありがとうございます。『朝の会での日付の確認はDTT的』『自由遊びでのおもちゃの貸し借りの仲介はNBDI的』、なるほど、分かりやすいですね。このように、私たちの支援は、意識せずとも両方のアプローチを自然と使っています。大切なのは、今、自分はどちらのアプローチを使っていて、その目的は何なのかを、意識できるようになることです。」

(スライド6:NBDIの基本戦略) 10分

「最後に、NBDIの基本的な考え方方に触れておきます。NBDIは、ただ子どもと楽しく遊ぶ『子守り』とは違います。私たちは、子どもの発達を促すプロとして、意図的に学びの機会を創り出す必要があります。」

「そのための基本戦略が『環境設定』です。子どもが、思わず私たちに何かを伝えたくなるような、ちょっとだけ『不便』な、あるいは『面白い』状況を、わざと作っておく。『仕掛け』を作る、という感覚です。」

(スライドの例を読み上げながら)

ミニカーをわざと高いところに置く。これは、意地悪をしているのではありません(笑)。子どもに『ミニカーって』という要求言語を、自発的に使う機会をプレゼントしているのです。」

(スライド7:まとめ) 5分

「本日は、NBDIの理論的な背景と、その重要性について学びました。」

キーポイントは、子どもの自発的なモチベーションを最大限に尊重し、遊びや生活という自然な文脈の中で、意図的に学びの機会を埋め込んでいく、という点です。

この視点を持つことで、皆さんの子どもたちとの関わりが、単なる『作業』や『お世話』から、すべて『発達を促すための専門的な支援』へと変わっていきます。」

「次回は、このNBDIを実践するための、さらに具体的なテクニック(モデリング、タイムディレイなど)について、演習を交えながら学んでいきます。」

何か質問はありますか?(質疑応答)

...それでは、本日の研修はこれで終了です。お疲れ様でした。」